

原告団活動をさらに強めよう

小川原告団団長が決意を表明

三池大災害 抗議集会

昭和三十八年十一月九日、三池炭鉱三川鉱における炭じん爆発によって四百五十八人の労働者の生命が奪われ、八百三十九人が一酸化炭素ガスによって脳細胞を狂わ



三歳の男の子の手を引き、ひと誕生すばかりの女の子をおぶって保育園に駆け込み、泣きじゃくる子供たちをふり切って工場に走り込んだ毎日。五歳の子が四十年の熱を出したとき、工場を休むことができず小学校二年の姉ちゃんに「たのむよ」と学校を休ませ、

うしろ髪を引かれる思いで工場行くのバスに乗り、おぼれてくる涙をふきふき門をくぐった木枯らしの吹く朝。「ボク勉強はすかんけん高校にはいかん」と就職した三男は、「高卒に負けるもんか」と危険物、ボイラー、自動車整備士など七つの免許を取り、「母ちゃん、社宅を追い出されたらボクの手を来んね」とやきやきしていたわつていれます。

あれから二十四年、「父ちゃんが生きていたら」あの爆発さえなかったならと子供たちの手を握り、何度泣いたかわかりません。三井に対し「父ちゃんを返せ」という怒りは、子供たちが大きくなっても風化するどころか、遺族の胸にいつまでも燃えいつけています。

またCO患者は、大きな赤ちゃんと化して熊本大学病院の受川さんをはじめ七十一人が、いまなお社会に復帰することができず治療をつづけていますが、ガンや肝臓障害、高血圧、じん肺などの合併症に苦しみ、病状悪化のため三池労働関係だけで、この二十四年間に四十八人の仲間が死んでいます。

大災害の責任を追及する裁判闘争は、昭和四十八年五月に提訴以来五十九回の公判をたたき、和解の勧告により本年七月「和解」による決着で一定の成果を得ることができましたが、和解金の低額と遺族の益・害の見舞金の打ち切りなど不満も多く、三井に對するたたかいはさきとつづきま

せん、三井に對するたたかいはさきとつづきま

病院から試験外泊で家に帰ると家族全員がビビリして、ちよつと気に食わぬことがあるとテレビに灰皿を投げつけたり、せつなく準備したお膳はひっくり返す、障子はバラバラ、夜中に目を覚ますと、電気のコードを首に巻きつけてかまをにらんでいたり、ナイフで首を切り血が吹き出しているのを救急車で病院に運ぶなど、寝る間も気が抜けないでいます。

この裁判闘争は、三池労組の方の暫定協定で来年また仕切りなおしてたたかうことになりました。

第二は、二度と災害を繰り返さないための保安の確立です。第八次石炭政策の強行で、いつ大災害が起きてもおかしくない状態に なっています。

第三は、CO患者の治療を守り、労災法の抜本的改正を目指すための整備をするにあたり、「支援をいただいた全国の仲間のみならず、に少しでもお返しを」と話し合

第四は、全国の労災・職業病のたたかひとの連帯です。有明災害裁判やじん肺訴訟との連帯、また九・二八裁判の完全勝利に向かつて、さらにはたたかひを強める必要

私たちが原告団は、大災害以来十四年の間、三池労組・主婦会をはじめ全国の仲間のみならずから協定は誠意をもって継続し、従来の暖かい激励と支援に深く感謝するとともに、さらに団結と活動を強化していく決意です。

みなさんの一層の「指導」と支援をお願いいたしまして、決意の表明を終わります。

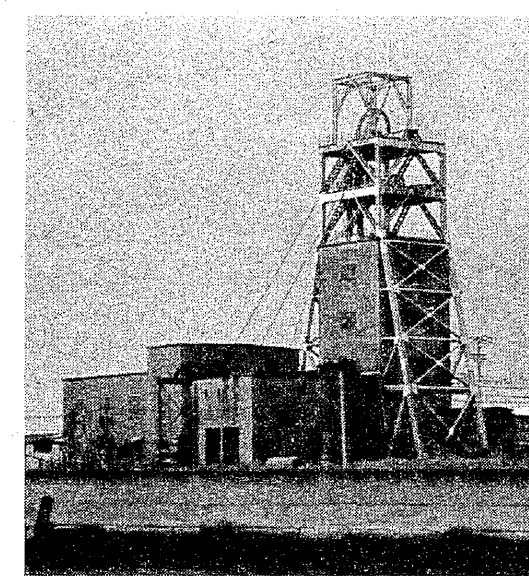
昭和六十二年十一月八日
三池大災害原告団団長
小川 絃 志

いま職場では

これでいいのだろうか 職場新聞『やま』が指摘

労働者は「ドレイ」ではない

第八次石炭政策のもとでの大幅な縮小合理化による希望退職後、各職場では人員不足を補うための出勤奨励が激しくなっている。ある職場では、二日以上休んで出勤すればB作業(注・固定給で低賃金)に繰り込まれる。係員は「人員が余っているから」といつているが、出勤奨励のための懲罰



南新開立坑

職場では「懲罰的なB作業をせざる現場を思うと今後が心配だ」「職制に盾つけば、筆先まで歩増し(賃金査定)を操作されそうであるが言えない」という声があがっている。

このような言いたいことも言えない現場での状況は、職場の労働者を奴隷化するだけである。

職場の民主化をみんまで考えようではないか。(三分金職場新聞『やま』第九号、十一月十日発行から)

坑内で 自転車が走る

南新開(第二鉱・有明)で坑内自転車が走るようになった。

これは、通気検定(広い坑内を巡回して測定する)の人員を減らし、能率をアップするために考え出されたものである。

第三に、坑内自転車は初めての導入であり、予測できない問題も多い。

会社は実施する前に、担当者や組合と十分に検討すべきだ。(三分金職場新聞『やま』第九号、十一月十日発行から)

「ニューズ・リーダー」 気になる「朝日」の変化

朝日新聞阪神支局製版事件から半年。朝日は変わらないうか、それともどこが変わったか。変わったこととは、社幹部に警備がつくようになったこと。局長以上が対象のよう

また、記者が自社の社屋に入るときも気になる朝日の動きで、場合、ネームプレートをつけ

産業労使が「秋まつり」

全労連(連合)結成をひか、えた十一月六日、「連合」初代会長となる豊山全労協議長や日経連代表、労働省幹部などが集う「産業労使「秋祭り」が東京の池之端文化センターで行われた。四回目の今年から労働省も後援(毎月)を思わせた。

新年特集号原稿募集

- ① 「みいけ」新年特集号で、平和と民主主義、命と権利を守り、生活向上をめざすための創造への意欲を燃やしまし
- ② 写真、絵、マンガ(白黒で大きさは自由)
- ③ その他(コント、笑話、レポーターなど。千字以内)
- ④ 私の主張、とくに労働運動、石炭政策、保安など。千字以内。
- ⑤ 締め切りは十二月十日